



日吉台一丁目自治会の防災訓練の様子

Contents

< 自主防災の必要性 >
日吉台一丁目自治会

< ちい寄附賛同店 >
お食事処 匠
カフェ 千

< とみさとの魅力みつけた! >
香取神社

ここ数年、各地で多くの地震が発生しています。また、豪雨災害も増え、洪水の被害に遭っている映像が連日テレビに映し出されていました。大災害は今後、富里でいつ起こってもおかしくありません。

被災してしまうと生活そのものが成り立たなくなってしまう。被害を最小限に抑えるために必要になってくるのは、地域の人で協力する「自主防災組織」です。

本号では、自主防災組織の仕組みを作った「日吉台一丁目自治会」取材しました。

自主防災組織のきっかけ ～阪神淡路大震災の教訓～

自主防災組織とは、様々な災害発生に備え、自治会などの地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という目的のために、日頃から様々な対策を講じて活動を行う組織のことです。災害の被害を防ぐためには個人や家族だけの力では限界があり、危険や困難を伴います。

そうした時、隣近所の人たちが集まって互いに協力をしながら防災活動に取り組むことで、実際に被災した時に被害を最小限に食い止めることができます。

自主防災への取組は平成7年に起きた阪神淡路大震災の教訓からでした。それまで、防災訓練は公園に集まって学校まで避難する「避難訓練」が中心でした。この大災害が起こるまでは、消防や警察、役所や自衛隊が助けに来てくれるものだという意識がありましたが、公共機関も被災するということが分かったのです。

驚くべきは、近隣住民に助けられた人の生存率は80%超と推定されるとのアンケート結果です。（※参照：内閣府「阪神淡路大震災教訓情報資料集」災害初期では、近所同士での助け合いが必要だという教訓が広がっていきました。



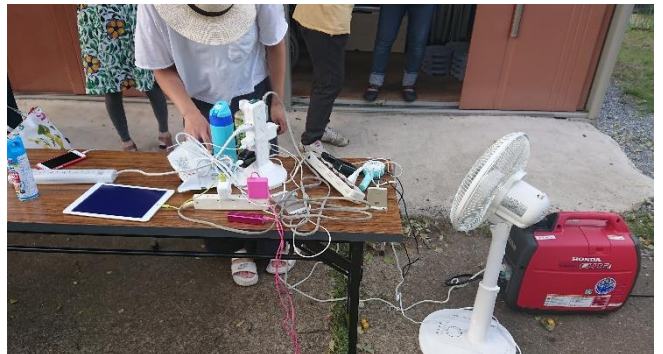
令和元年の台風15号 根元からえぐられた公園の大木

大切なのは「しくみ作り」

平成26年、日吉台一丁目自治会（以下一丁目自治会）は、今後の自治会の在り方検討部会を設け話し合いを重ねました。住民にアンケート調査を行ったところ、防災組織の必要性が大切であるということが分かり、自主防災組織の仕組み作り着手したそうです。当時、検討部会の部会長を務めた町田弘さんは、「自主防災組織の作り方には2つある」と話してくれました。

一つは別組織を新たに作ること。もう一つは自治会そのものが災害発生時に、自主防災組織として活動すること。

自治会とは別に自主防災組織を作ることは、防災に関心の高い人が集まりやすく短期間で充実することがメリットになります。しかし、その方たちが高齢化してしまうと担当する人がいなくなり、次世代につながらずに終わってしまいます。また、決まった人だけが携わっていると、その人が不在だったり被災をしたら、実際の災害時に組織は機能しなくなってしまいます。



公園内に設置したスマホの充電スポット

一丁目自治会では、災害が起こった時に、自治会の組織が防災組織として機能するという方法を選択しました。自主防災組織は役員、組長が担当します。1年交代で変わっていくと、約10年でひと通り順番が回るようになります。

誰かがいれば何とかなる「仕組み作り」にこだわり、あえて専門の組織は作りませんでした。

「みんなが防災意識を持つことで、いざという時に、いつものリーダーがいなくても訓練に参加した人が『たしか訓練ではこんな風にやっていたはず』となって地域の力になっているはずです」と町田さんは言います。

令和元年の台風15号では、辺り一面が停電になり、固定電話、テレビ、パソコンが使えず情報も得にくくなりました。一丁目自治会で所有していた発電機をすぐに稼働し、スマホの充電スポットを作ったそうです。

公園では倉庫が数メートルもずれてしまい、大木が根っこからえぐられ、水道管は破損といった状況の中、一丁目自治会自主防災会の災害対策本部を設置し、役員や常任幹事などが2人一組になって全世帯へ安否確認を実施しました。

一丁目自治会が自主防災組織として機能してから、訓練の成果を実感した瞬間でもありました。

地域での草の根活動の大切さ

仕組み作りに着手して8年以上経った現在、公園の防災倉庫には、発電機、リヤカー、レスキューセット、チェーンソー、担架や車いすといった防災資器材が増え、充実してきました。

年2回実施してきた防災訓練では、役員・組長の経験者が1年ごとに交替することで、多くの自治会員が資器材の使い方を知る機会になっています。また、訓練に役員、組長以外の方もたくさん参加してくれるそうです。

参加した人は、「防災への備えがたくさんあることに驚きました。いざという時には公園に来れば何とかかなると思えるようになりました。頼りになります！」と話していました。

こうした資器材を揃えることにも「なぜ必要か?」「何が必要か?」ということを日頃から考えることが大切だと町田さんは言いますが、コツなどはあるのでしょうか?



公園内にある防災倉庫



消火栓の使い方の訓練

「地域でゴミ拾いをしたり、草むしりをしたり、みんなで汗をかいて終わったら美味しいお茶を飲んでお互いのことを知り合える時間が生まれます。地域の草の根活動を大切に、お互いに共感し合える仲間が増え、皆で考えていくことができました。」と町田さんは話します。

今年、初めて一丁目自治会の役員になり会長となった筒井厚至さんはまだ40代。この立場になって分かったことがあるといいます。

「最近、若い世代の人たちが協力してくれるので、それがとても嬉しいです。その人たちがいずれ自治会を担うようになれば、また違う形になるかもしれません。ただ、いつも挨拶できてホッとできる地域の関係性は本当に大切です。そこはこれからも引き継いでいきたいと思っています。」と話してくれました。

世代を超えたコミュニケーションを大切にしながら、子どもから高齢者まで安心して暮らせることは、いざという時も助け合えるまちづくりにつながっていきますね。

「寄附で支えるまちづくり」に賛同しているお店

お食事処 匠

篠田 靖男さん

お店の常連さんからの紹介でちい寄附を知りました。自治会の活動には日頃から協力しています。以前のような営業形態ではないですが、地域のお客さんが来てくれていることに感謝しています。



【富里市日吉台1-22-1

Tel 0476-93-6176】

カフェ 千

岡本 千江子さん

知人の紹介でちい寄附を知り、地域の為に小さなことからコツコツと貯められるところがいいなと思い賛同しました。予約制で営業していますので、お越しになる時はお電話くださいね。



【富里市中沢427-57 Tel 090-2424-9741】

香取神社



勝運の神様

富里市南部地区、高松地域に鎮座する香取神社。田んぼや木々に囲まれた自然豊かな場所で、小道の先に神社が見えて来ます。境内に入ると季節に合わせた飾りや、西瓜柄のベンチや小物が飾られ、参拝に来た方を楽しませてくれます。

勝運の神様として有名で、6月の富里スイカロードレース大会の時期には、完走を祈願するランナーの方も参拝に訪れました。西瓜柄の交通安全のステッカーもあり、車に貼られている方を見かけます。

香取神社では、七五三、初宮詣、安産祈願、厄払い、交通安全、家内安全、商売繁盛、必勝祈願、病気平癒、良縁成就、合格祈願の祈禱も行っています。



果物・野菜モチーフの御守

西瓜モチーフが大人気

香取神社には西瓜をモチーフにしたものがたくさんあります。宮司の篠原政弘さんは西瓜農家と兼業されていて、『神社や御朱印を通して富里市を知ってもらいたい』という気持ちがあったそうです。

西瓜絵馬は、西瓜の形をしていて、境内にある願いのトンネルの中に奉納することで、願いを叶らせる御利益があるそうです。他にも西瓜をモチーフにした様々な御守があり、毎月違ったデザインの御朱印は書き置きされていて参拝に訪れた際にお受けできます。

人気の西瓜柄のオリジナル御朱印帳は、事前に連絡をしてから購入できるそうですよ。

1日、15日は、限定御朱印が頒布されるので参拝される方も多く、記念に映えスポットで写真を撮っていくのが参拝の定番になっているようです。



西瓜柄のオリジナル御朱印帳・願いのトンネル

西瓜以外にも、果物・野菜をモチーフにした梅の突破合格御守、トマトの安産御守、トウモロコシの学守、人参厄除御守、大根健康御守もあります。

ぜひ、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

【アクセス】

香取神社 千葉県富里市高松101 駐車場 約20台

コーディネーターのひとりごと

あっという間に秋ですね。私は米作りをしていて、新米が採れると毎年食欲の秋を堪能しています。新米のおむすび美味しいですよ！皆さんはおむすびの具は何が好きですか？私は塩とごま油で握ったおむすびが大好きです。具がなくても美味しいんですよ！（ころりん）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E-mail:tomisapo@bz04.plala.or.jp

登録団体数：89団体（9月1日現在）

年4回発行 発行部数：2500部 配布先：市内公共施設 他

